

# 2015年3月期 決算概要

---

テルモ株式会社  
上席執行役員 IR・広報室担当  
北島 一明

2015年5月8日

2015年3月期の決算概要につきまして説明いたします。

## 決算ハイライト

### 全社

- 薬価・公定価改定の影響を吸収し、過去最高の営業利益を達成
- 主要因は、①心臓血管の伸長、②円安、③カンパニー経営下での収益マネジメントの徹底

### 心臓血管

- 海外カテーテル・ニューロが継続して二桁伸長
- Ultimaster(新DES)は順調に拡大中
- 品質システムおよび血液モニターにおいてFDAの規制解除(TCVS社)

### ホスピタル

- 国内の市場環境が厳しい中、ポートフォリオミックスの改善や、低収益ビジネスの縮小により収益性を維持

### 血液

- 市場環境の悪化に備え、コストコントロール強化
- 製品では、アフェレシス治療や細胞増殖システムなどが伸長、地域では、中南米・アジアで継続伸長



© Terumo Corporation

2015/5/8

2/28

今回の決算ハイライトです。

2014年度は、日本の薬価・公定価改定によるマイナスの影響を吸収し、増収増益となり、過去最高の営業利益を達成しました。主要要因としては、心臓血管カンパニーの売上が大きく伸びました。円安により売上、利益ともにプラスの影響が出ています。また、2014年度から移行したカンパニー経営の下、収益マネジメントの徹底により、収益に大きく貢献いたしました。

次にカンパニー別のハイライトです。

心臓血管カンパニーでは、海外のカテーテルとニューロバスキュラーの売上が継続して二桁伸長し、大きく牽引しました。中でも2014年度にローンチした薬剤溶出型冠動脈ステントUltimasterは、欧州、アジア、そして中南米へと順調に販売地域を拡大し、売上也伸びています。また、2015年度には日本でもローンチを予定しています。もう1点は、TCVSにおける品質システムです。品質システム全体と血液モニター製品についてはFDAの規制が解除されました。これについては後ほどご説明します。

ホスピタルについては、上期を中心に厳しい事業環境でしたが、ポートフォリオミックスの改善、低収益ビジネスの縮小などにより、前年並みの収益性を維持しました。

血液システムについては、以前よりお伝えしているとおおり、市場環境の悪化に備え、コストコントロールを厳しく行っております。売上は、製品ではアフェレシス治療、細胞増殖システムが大きく伸びました。地域では先進国は苦しい状況ですが、中南米、アジアは引き続き大きく伸びました。

## 増収増益、営業利益・経常利益は過去最高

(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	4,674	4,895	+5%	+1%
粗利益	2,420 (51.8%)	2,561 (52.3%)	+6%	+1%
一般管理費	1,466 (31.4%)	1,592 (32.5%)	+9%	
開発費	301 (6.4%)	294 (6.0%)	-3%	
営業利益	653 (14.0%)	675 (13.8%)	+3%	-1%
(のれん等償却除く)	816 (17.5%)	851 (17.4%)	+4%	-1%
経常利益	638 (13.7%)	707 (14.4%)	+11%	
純利益	341 (7.3%)	385 (7.9%)	+13%	

期中平均レート	US\$	100円	110円
	EUR	134円	139円



© Terumo Corporation

2015/5/8

3/28

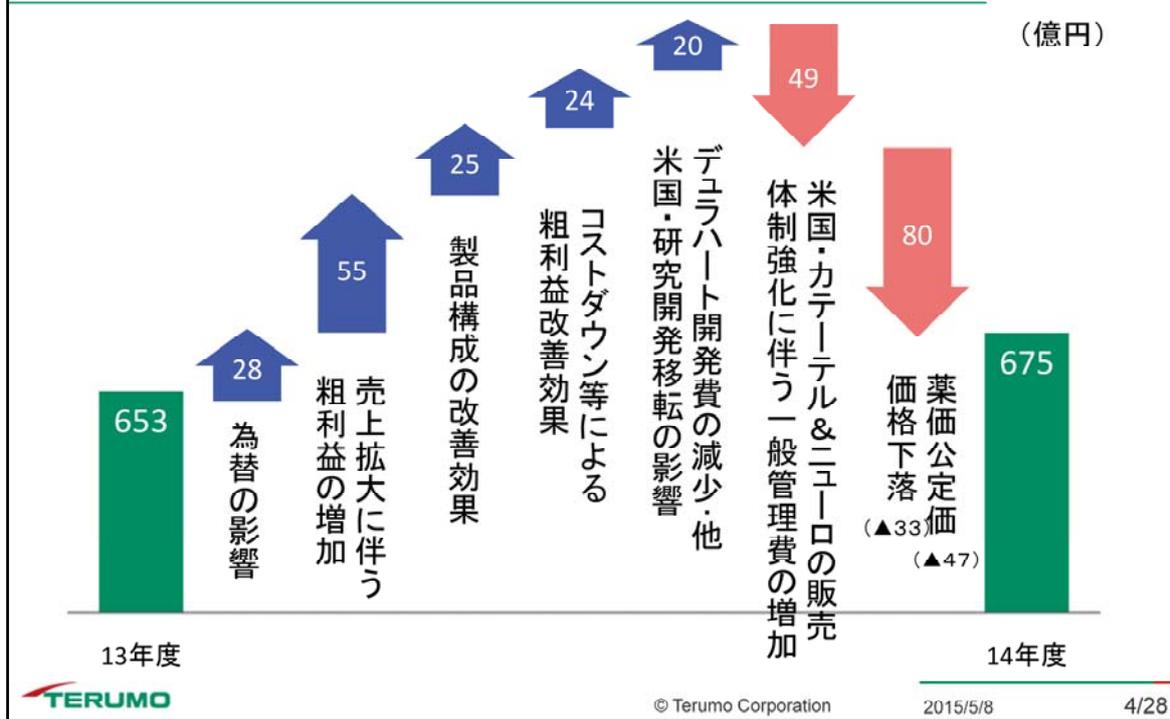
2014年度の売上高は、4,895億円と前期比5%増、粗利益は2,561億円で6%増、粗利益率は2013年度の51.8%に対し、52.3%と0.5ポイント改善しました。

営業利益は675億円、前期比3%増となりました。

経常利益は707億円、前期比11%増となり、営業利益と共に過去最高となりました。

当期純利益は、385億円で前期比13%増加となりました。期初の予想値は375億円でしたが、その後、第2四半期が終わったところで、欧州のポートフォリオ改革による引当を計上したことなどにより、335億円に修正しましたが、最終的には385億円となりました。

## 営業利益増減分析



次は営業利益の増減分析です。

増益要因は、為替の影響による28億円に加え、売上増加による粗利益の増加、ポートフォリオミックス改善による高収益品の増加、コストダウン等による粗利益改善効果です。

一方、減益要因は、米国カテーテル・ニューロの販売体制強化による一般管理費の増加で49億円、薬価・公定価改定およびその他の価格下落で80億円となっています。

その結果、2014年度の営業利益は675億円、2013年度の653億円から増益となりました。

## 開発費

(億円)

	13年度 実績	14年度 実績	15年度 見通し
開発費	301	294	350
対売上高%	6.4%	6.0%	6.7%

- 14年度: 事業譲渡によるデュラハート開発費の減少  
➤ 13年度: 9億 ⇒ 14年度: 0億
- 15年度以降: 米国西海岸の新設・研究開発拠点の本格活動開始を含め、カテーテルやニューロを中心に開発を加速



© Terumo Corporation

2015/5/8

5/28

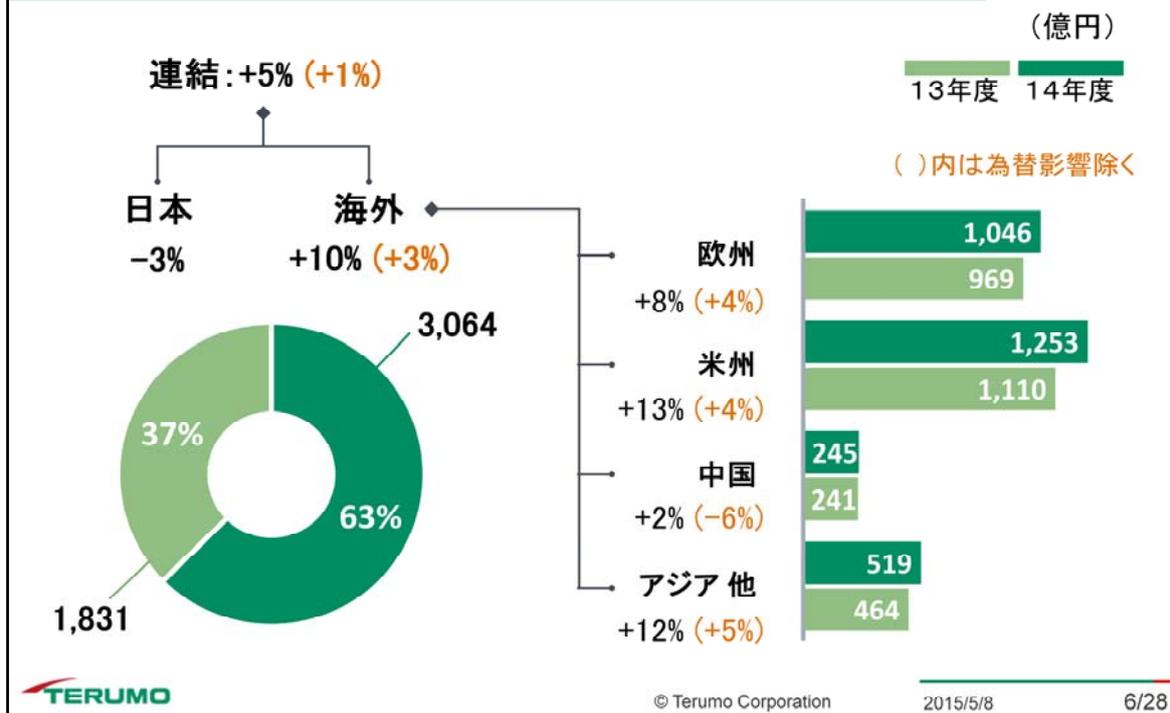
開発費について、ご説明いたします。

2014年度は294億円で前期比マイナス7億円となりました。主な要因としては、デュラハートの開発費の減少です。2013年度は9億円でしたが、事業譲渡により、2014年度はなくなりました。

2015年度は350億円、前期比56億円、19%の増加を見込んでいます。主な要因として、カテーテル、ニューロを中心に米国西海岸での開発が本格化する見込みです。加えて、血液、ホスピタルの開発費も前期比で二桁の増加を見込んでいます。

対売上高比率は、2013年度の6.4%から2014年度は6.0%と下がりましたが、2015年度は6.7%と増加を見込んでいます。米国西海岸の研究開発拠点が稼働を開始した2014年度第4四半期は6.7%となり、2015年度を通じて同水準を見込んでおります。

## 地域別売上高



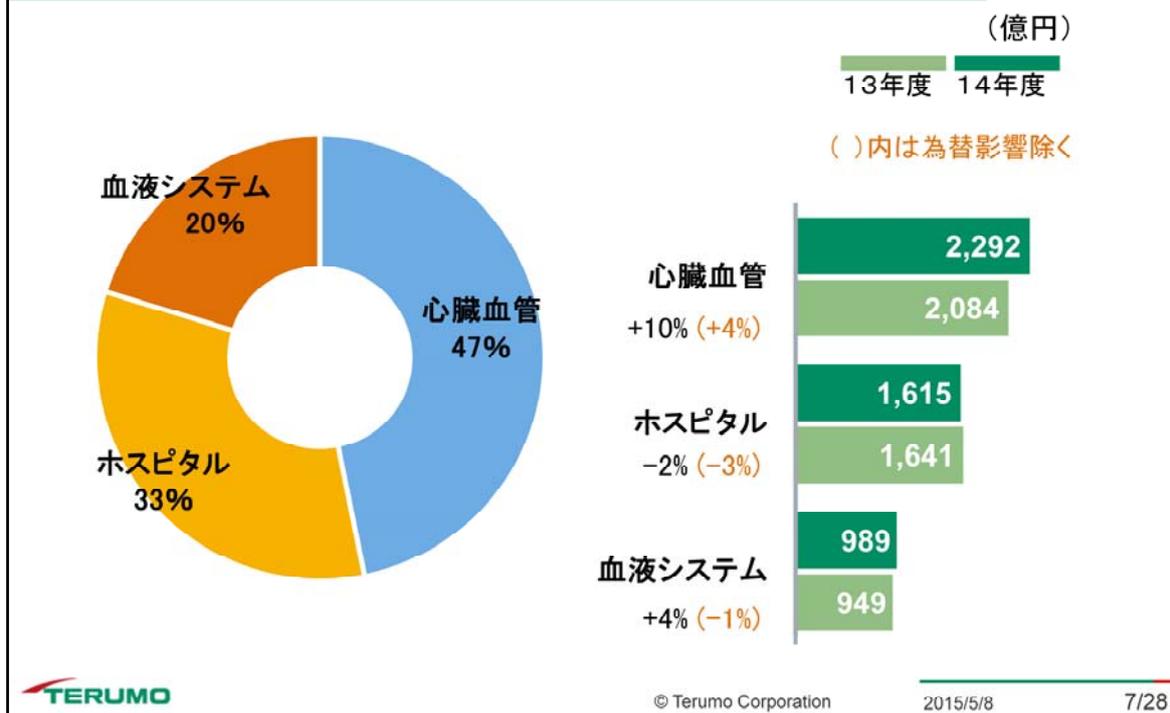
次は地域別の売上です。年間を通じて傾向は同じです。

日本では薬価・公定価の影響がありましたが、海外の二桁伸長により、連結では5%増加となりました。

その結果、海外売上比率は63%に向上しました。今後も海外での売上を伸ばしていきますので、比率は上がると見えています。

海外を地域別に見ますと、中国は代理店網の再編により売上に影響があり、第3四半期までは前期比でマイナスでした。第4四半期から回復してきており、通期では前期比2%のプラスに転じました。2015年度も二桁の伸長を見込んでいます。

## カンパニー別売上高



カンパニー別の売上です。

これまでと同様、心臓血管が全体の売上を牽引しており、前期比10%増となりました。血液システムは4%増、国内売上が中心のホスピタルは2%のマイナスとなりました。

## カンパニー別事業利益（率）

（億円）

		13年度	14年度	増減率	為替除く
事業利益	心臓血管	440 (21%)	475 (21%)	+8%	-1%
	ホスピタル	208 (13%)	208 (13%)	+0%	-1%
	血液システム	186 (20%)	185 (19%)	-0%	-3%
その他※		-17	-17	-	-
営業利益 (のれん等償却除く)		816 (17%)	851 (17%)	+4%	-1%

※ その他：カンパニーに直接関連しない項目

なお、13年度の数字は、14年度と比較するため組替を一部実施



次はカンパニー別の事業利益です。

心臓血管が伸長し、ホスピタルと血液システムについては前年とほぼ同水準となりました。この後、カンパニー別に説明いたします。

## 心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	2,084	2,292	+10%	+4%
事業利益(率)	440 (21%)	475 (21%)	+8%	-1%

### <売上面>

- 海外カテーテルやニューロ製品(ステント等)の売上伸長 +175億
- CV製品がグローバルで堅調に推移 + 30億
- 公定価改定の影響 ▲ 37億
- Ultimaster(新DES)は順調に拡大中

### <利益面>

- IS事業を中心とした原価改善効果 + 13億
- 品質システムおよび血液モニターにおいてFDAの規制解除(TCVS社)



© Terumo Corporation

2015/5/8

9/28

心臓血管カンパニーは、売上は10%増、事業利益は8%の増加となっています。

売上については、海外のカテーテルおよびニューロ製品が大きく伸びており、2015年度についても、大きな伸びを見込んでいます。また、CV製品がグローバルで安定的に伸びており、30億円の増収となりました。その結果、カンパニー全体では、日本の公定価改定の影響を吸収し、大幅な増収となりました。

収益では、IS事業で愛鷹工場を中心に原価改善活動によるプラス効果が13億円となりました。

TCVSの販売制限に関しては、4月17日に発表しましたとおり、FDAによる査察を受け、品質システム全般および血液モニターにおいて規制解除となりました。

一方、人工心肺装置は、部品点数が非常に多く、生産工程のデータ検証に時間を要するため、2015年度にデータ検証を行い、再度FDAの査察を受ける計画です。

TCVSの品質システム改善費用は、2014年度の51億円の内、約20億円が継続して発生が見込まれる費用、残り約30億円がコンサルティング費用の支払いです。

2015年度は、継続発生する約20億円の費用が、円安により約25億円に増加する見通しです。一方コンサルティング費用は、人工心肺装置の改善費用に約15億円かかる見通しです。さらに、血液モニターは、新たに生産を立ち上げるための費用が約10億円発生し、トータルでは2014年度並みの費用を見込んでおります。

## ホスピタルカンパニー: 厳しい環境の中、収益性維持

(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	1,641	1,615	-2%	-3%
事業利益(率)	208 (13%)	208 (13%)	+0%	-1%

### <売上面>

- 国内: 医療市場の環境変化の影響 ▲16億
- 薬価・公定価改定の影響 ▲10億
- 欧米: 低収益アカウントの整理 ▲8億
- 製薬向けB2Bビジネスが海外で伸長 +10億

### <利益面>

- ポートフォリオミックスの改善や低収益ビジネスの縮小により収益性を維持



© Terumo Corporation

2015/5/8

10/28

ホスピタルカンパニーでは、上期の決算発表時にご説明した国内の市場環境変化に伴う影響が、下期以降、若干の改善傾向は見られたものの依然残り、薬価・公定価改定の影響と合わせ、売上減の要因となりました。

欧米での低収益アカウントの整理により、売上は減少しましたが、今後の収益性の改善に寄与する見込みです。一方、海外製薬企業向けのB2Bビジネスの売上は伸びており、欧米での収益性改善にも寄与しています。

ポートフォリオミックスの改善、低収益アカウントの整理により、2014年度の収益性は前年並みを維持しました。2015年度は改善を見込んでいます。

## 血液システムカンパニー：新興国、アフェレシス治療がドライバー

(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	949	989	+4%	-1%
事業利益(率)	186 (20%)	185 (19%)	-0%	-3%

### <売上面>

- 中南米・アジアで全血・成分ともに伸長 +24億
- アフェレシス治療や細胞増殖システムなどが海外で継続成長 +25億
- 国内：血液センターへの売上の減少 ▲12億

### <利益面>

- 売上状況に応じた収益マネジメントを実施



© Terumo Corporation

2015/5/8

11/28

血液システムカンパニーは、地域では中南米、アジアにおいて、製品ではアフェレシス治療、細胞増殖システムが売上を牽引しました。

ただし、今年度についても価格低下圧力は続くと見えています。この後、2015年度計画のページでご説明します。

## 14年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	領域	製品	地域	
心臓	新DES (Ultimaster)	◎◎★ 欧・南米・亜	アブレーション	腎除神経カテーテル	亜・南米	
	新PTCAバルーン	◎ 欧・南米・亜		TRI腎除神経カテーテル	亜・南米	
ペリフェラル	皮下植え込み型薬液注入システム		日	輸液システム	閉鎖式輸液システム	◎ 日
	肝動脈化学塞栓術オクリュージョンマイクロバルーン	★	日	DM	血糖測定システム	◎ 日
	PTAバルーン(膝下)		欧	栄養	逆流防止型流動食	★ 日
脳	頸動脈ステント	★	欧		新DES (Ultimaster)	
	コイルアシスト・ステント	◎	米		脳梗塞治療デバイス (ERIC)	
	脳梗塞治療デバイス	◎★	欧		血糖測定システム (フィットスマイル)	

◎ 業績貢献大、★ イノベーション度高



© Terumo Corporation

2015/5/8

12/28

14年度のパイプライン製品のローンチ状況です。最大のトピックとしては、新DESのUltimasterのローンチで、順調な立ち上がりとなりました。

## 14年度 業績予想を達成: 過去最高の営業・経常利益

(億円)

	予想	実績
売上高	4,880	4,895
営業利益	640	675
経常利益	620	707
純利益	335	385

期中平均レート	US\$ 100円	110円
	EUR 140円	139円

### 純利益の増益要因

- 売上伸長と収益マネジメントによる営業利益の増加
- 円安による為替差益



© Terumo Corporation

2015/5/8

13/28

2014年度の業績予想と実績についてご説明します。

売上高、営業利益、経常利益、純利益いずれも予想を上回りました。

純利益については、期初375億円の予想を、第2四半期で335億円に修正しましたが、実績では385億円となりました。営業利益の増加に加え、経常利益での為替差益66億円が大きく貢献し、純利益は予想を大幅に上回りました。

## 15年度 業績予想

年間想定レート： US\$ 120円、EUR 130円

(億円)

	15年度 予想	対前年 増減率
売上高	5,200	+6%
営業利益	700	+4%
経常利益	670	-5%
純利益	395	+3%

営業利益：血液の価格下落をリカバリーし影響を最小化(▲27億)

経常利益：14年度は為替差益(66億)を計上



© Terumo Corporation

2015/5/8

14/28

2015年度の業績予想です。

想定為替レートは、2014年度は米ドル100円、ユーロ140円でしたが、2015年度は米ドル120円、ユーロ130円としています。

売上高は5,200億円で前期比6%増、営業利益は700億円で4%増、経常利益は670億円で前期比5%マイナス、純利益は395億円で前期比3%増を予想しています。

営業利益は、血液システムにおいて、アメリカを中心とした価格下落による収益への影響が、2014年度第4四半期から出始めています。この状況は、2015年度も続くと見込んでいます。

米欧を中心とした価格下落圧力に対し、コストダウンと新興国での売上拡大、さらに新製品の拡大でリカバリーを図りますが、血液システムカンパニーの事業利益に対し、27億円のマイナス影響を見込んでいます。

経常利益は、2014年度は為替差益66億円を計上しています。

## 15年度パイプライン製品

領域	製品	◎◎★	地域	領域	製品	◎◎★	地域
心臓	新DES(Ultimaster)	◎◎★	日	CV	遠心ポンプ・ディスポ (PCPS用)		日
	次期血栓吸引 カテーテル		欧・南米・亜	DM	小型・血糖測定システム		日
ペリ フェラル	ステント(膝上)	★	米	血液	自動製剤化システム	★	日
	ステント細径化(Misago)		欧				
	PTAバルーン(膝上)		欧・米				
	PTAバルーン(膝下)		日				
	塞栓用ビーズ	★	欧				
脳	コイルアシスト・ステント	◎	日				
	液体塞栓剤	★	欧				
	プロテクションデバイス	★	欧				



新DES(Ultimaster)  
国内ローンチ



液体塞栓剤(PHIL)  
一剤型プレフィルドシリンジ



プロテクションデバイス  
頸動脈ステントとのシナジー



血液自動製剤化システム  
(TACSI)  
高品質と省力化を実現

◎ 業績貢献大、★ イノベーション度高



© Terumo Corporation

2015/5/8

15/28

2015年度のパイプライン製品です。

Ultimasterは、日本でのローンチによる売上増加により、業績への貢献も大きいと見ています。

## 15年度 業績予想:ドル・ユーロ以外の通貨の影響

	14年度 期中平均レート	→	15年度 年間予想レート
US\$	= 110円	→	120円 (+ 10円) 9%安
EUR	= 139円	→	130円 (△ 9円) 6%高

(億円)

	売上高	営業利益
US\$	+168	+20 (内のれん-15)
EUR	- 59	-21
その他通貨	+ 12	-13 (アジア生産地通貨高-20)
合計	+121	-14



© Terumo Corporation

2015/5/8

16/28

2015年度のドル、ユーロ以外の通貨の影響について説明いたします。

これまで、ドル、ユーロのレートと感応度で、為替の影響を示してきましたが、今年に入り、特にその他の通貨で変動が大きく、予想が難しくなっています。

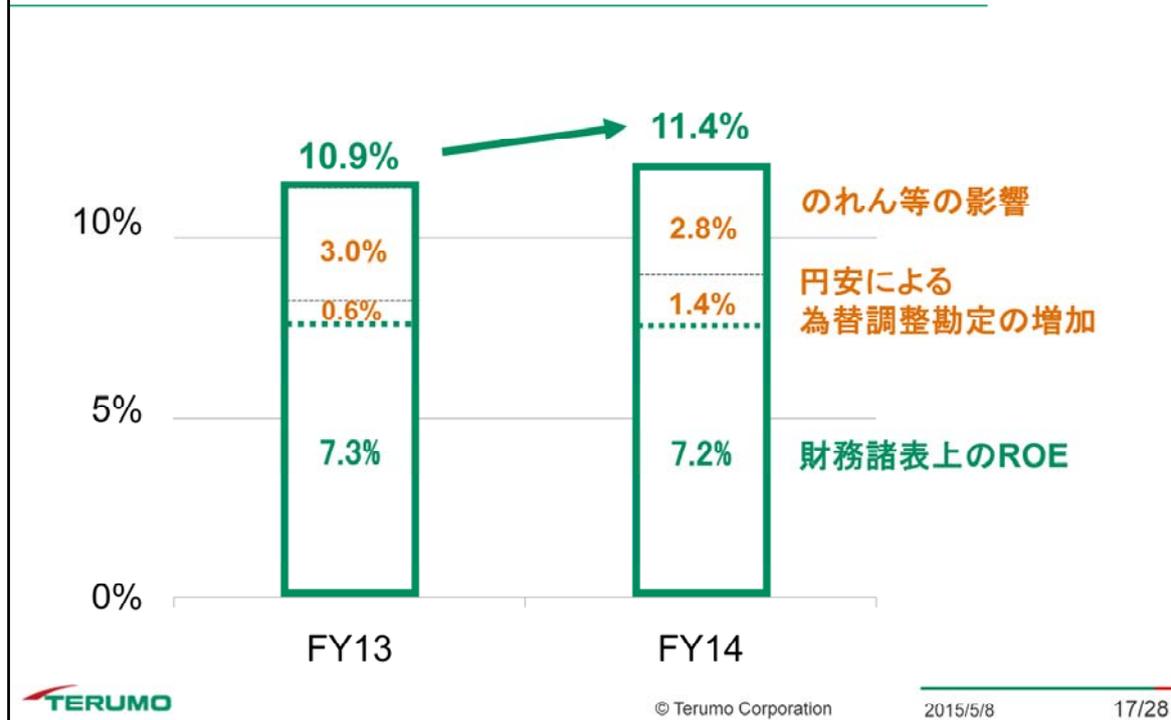
ドルは10円の円安を想定しており、売上で168億円の増加を見込んでいますが、営業利益では売上と同水準での寄与は見込めません。これは、BCT等の買収によるのれん代をドルで計上しているため、円安により円ベースではのれん代が増加するためです。この影響が15億円あるため、ネットではプラスの影響が20億円となる見込みです。

ユーロの影響は比較的シンプルで、円高に対して、売上・利益ともにマイナスとなります。

その他通貨は、トータルで円安を見込んでおり、売上高はプラスですが、営業利益はマイナス13億円を見込んでいます。これは、アジアの生産拠点がある中国、フィリピン、ベトナムの通貨が比較的高い水準で推移しており、レートが低い地域へ輸出するとマイナスの影響となるためです。

合計すると、営業利益への影響はマイナス14億円となる見込みです。

## ROE: のれん等・為調の影響を除き、10%超を維持



最後のスライドです。

テルモのROEは財務諸表上では、13年度が7.3%、14年度で7.2%になりますが、2つの影響を考慮しなければなりません。

一つはのれん等の影響、日本の会計基準では毎年償却費を計上しますが、IFRSや米国会計基準では計上しません。この影響を計算すると2013年度で3%、2014年度で2.8%あります。

加えて、円安による為替調整勘定の増加があります。BCTを買収した2011年は1ドル80円の為替レートで資産計上しました。現在が1ドル120円とすると、資産は1.5倍となり含み益が発生しますが、ROEを計算する際の分母となる純資産も増えることとなります。為替調整勘定は2014年度で890億円と非常に大きく、ROEへの影響も1.4%あります。

のれん等と為替調整勘定の2つの影響を除くと、2013年度で10.9%、14年度では11.4%になります。ROEを計算される際、この点を考慮いただければと考えています。

# 参考資料

## 事業別 地域別売上高と伸長率(14年度)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	483 (-2%)	1,809 (6%)	656 (6%)	752 (8%)	189 (-8%)	212 (11%)	2,292 (4%)
うちカテーテル※	369 (-3%)	1,376 (7%)	518 (7%)	516 (11%)	179 (-9%)	163 (11%)	1,744 (4%)
ホスピタル	1,223 (-3%)	392 (-4%)	127 (-0%)	86 (-11%)	16 (12%)	163 (-4%)	1,615 (-3%)
血液システム	126 (-9%)	863 (0%)	263 (-1%)	415 (-1%)	40 (-0%)	144 (8%)	989 (-1%)
合計	1,831 (-3%)	3,064 (3%)	1,046 (4%)	1,253 (4%)	245 (-6%)	519 (5%)	4,895 (1%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( )内は為替影響除く対前年同期伸長率



© Terumo Corporation

2015/5/8

19/28

## 販管費

(億円)

	13年度	14年度	増減	増減率
人件費	638	705	+67	+10%
販促費	142	160	+18	+12%
物流費	105	110	+5	+5%
償却費	227	251	+24	+10%
その他	354	366	+12	+4%
一般管理費計	1,466 (31.4%)	1,592 (32.5%)	+126	+9%
研究開発費	301 (6.4%)	294 (6.0%)	-7	-3%
販管費合計	1,767 (37.8%)	1,886 (38.5%)	+119	+7%

( )内は対売上高%



## 販管費

(億円)

	13年度*	14年度	増減	増減率
一般管理費計	1,543	1,592	+49	+3%
研究開発費	313	294	-20	-6%
販管費合計	1,856	1,886	+30	+2%

※為替の影響を除いた換算値

## 四半期の動き

(億円)

	Q4 (1-3月)	14年度 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上高	1,221	1,149	1,184	1,299	1,263
粗利益	633(51.9%)	607 (52.8%)	623(52.6%)	678(52.2%)	654(51.7%)
販管費	386(31.6%)	379 (33.0%)	385(32.5%)	405(31.2%)	424(33.5%)
開発費	77( 6.3%)	67 ( 5.8%)	69( 5.8%)	74( 5.7%)	84( 6.7%)
営業利益	170(14.0%)	161 (14.0%)	169(14.3%)	199(15.3%)	146(11.5%)

四半期 US\$	103円	102円	104円	115円	119円
平均レート EUR	141円	140円	138円	143円	134円



© Terumo Corporation

2015/5/8

22/28

## 営業外・特別損益・法人税

(億円)

	13年度	14年度	
営業利益	653	675	
営業外損益	-15	+32	為替差益 14年度 66
	為替レート	3月末	3月末 差異
	US\$	102.9	120.2 (+17.3)
	EUR	141.7	130.3 (-11.4)
特別損益	-109	-67	欧ポートフォリオ再編 - 56 減損会計 13年度 -150 14年度 - 16
法人税等合計	-188	-256	
法人税等負担率	36%	40%	税制改正の影響
純利益	341	385	

## 設備投資と研究開発費

(億円)

	14年度		15年度 見通し	前期比 増減
	見通し	実績		
設備投資	420	414 (99%)	420	+6
償却費※	410	407 (99%)	450	+43
研究開発費	310	294 (95%)	350	+56

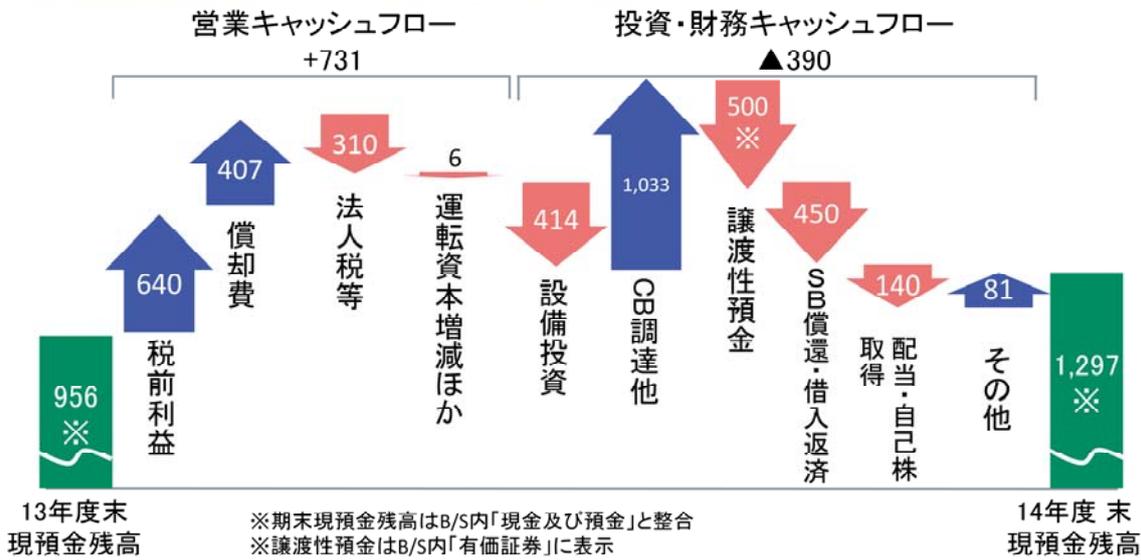
※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

※%: 対年間見通し比

# キャッシュフロー

- CB1,000億円調達、500億円短期資金運用
- 法人税負担あったが営業キャッシュフローは順調に回復
- 2015年3月にSB400億円償還、自己株取得30億円実施

(億円)



13年度末  
現預金残高

※期末現預金残高はB/S内「現金及び預金」と整合  
※譲渡性預金はB/S内「有価証券」に表示

14年度末  
現預金残高



© Terumo Corporation

2015/5/8

25/28

## 為替感応度

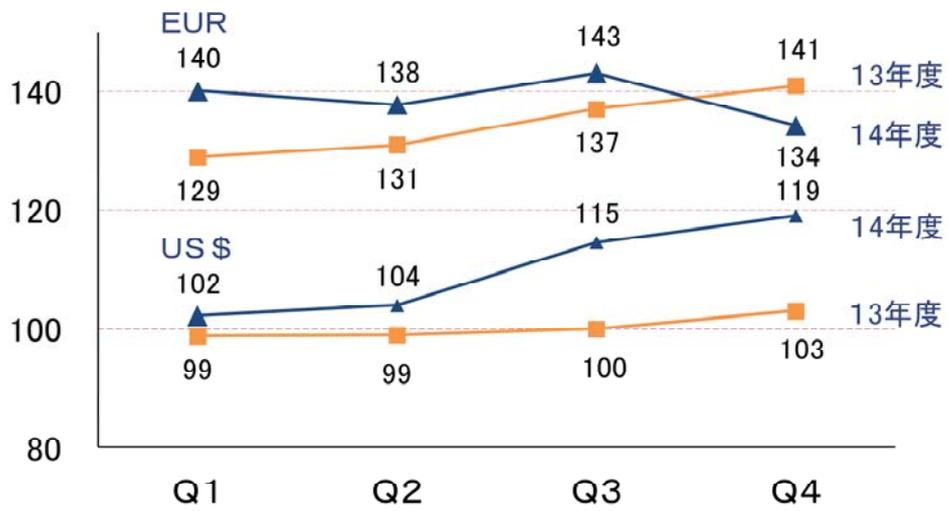
14年度 (億円)

	US\$	EUR
売上高	18	8
営業利益	3	4

15年度 (億円)

	US\$	EUR
売上高	18	7
営業利益	1	2

## 四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

## おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。